

甲賀市 農業委員会だより

2018.8.15

第27号



輝け未来

株式会社
マックスファーム

しがらきちょう こうやま
信楽町 神山

Q 株式会社マックスファームとは？

A 2012年にスタートした農業生産法人で、主にイモ類を栽培しています。イモ類を選んだのは、「備蓄できる野菜」をテーマの一つに挙げているからです。大規模な災害が身近で発生した際に提供できればという思いから、備蓄しやすいイモ類の栽培が始まりました。

Q 現在の取り組みは？

A 当社は農業者としてまだまだ新米です。農業の技術や知識をしっかりと習得し、安定した生産を行うことを第一の目標にしています。2016年からは、有機JAS認定農場で野菜を栽培しています。特徴は、EM(※)農法と塩農法を合わせた取り組みです。皆様のもとに安心安全でおいしい野菜が届けられるよう、真心をこめて育てています。
※Effective Microorganisms 〓 有用な微生物群

Q 今後の取り組みは？

A 収穫した野菜をできるだけ無駄にしたくないという思いから、加工食品の商品開発にも力を注いでいます。今後は、アイデアと工夫により良い商品化やブランド化を推進し、微力ながらも地域に貢献していきたいと考えています。





米国ミシガン州・イリノイ州から 日本茶バイヤーが甲賀市を来訪



昨年11月、滋賀県茶業会議所と滋賀県が訪問団を結成し、ミシガン州で近江のお茶をPRするプロモーションを行いました。

これを受け、本年5月28日から31日まで、近江のお茶に興味を持っていただいたデトロイトとシカゴの日本茶バイヤー7人が甲賀市を訪れました。



デトロイトから来られた4人は日本が初めてということ
で、茶園から製茶工場、茶販売店舗と全てを見ていただく
こととなりました。
茶園を見るのが初めての方がほとんどで、朝宮の山間茶
園や土山での茶摘み体験は強く印象に残ったようです。ま
た、美味しいお茶の淹れ方教室にも参加されました。



甲賀市内6社、市外3社の茶商との商談会が開催されましたが、限られた時間の中で多くの商品を探そうと必死さが伺えました。他にも、信楽焼の店を訪れ、茶器や展示用の大型土瓶、水琴窟等を求められていました。



今、アメリカは日本食ブームで、日本茶に興味を持たれている人が年々増加しているそうです。日本茶を出す喫茶店も増えているようで、商機は十分のことです。アメリカの消費者の反応を見ながら、これからも近江のお茶を輸入したいとの話をしていただきました。

茶樹の寒干害

この冬、甲賀市内で茶樹の寒干害が発生しました。

これは、低温と乾燥による樹体内の水分不足により茎や葉が枯れる現象で、朝宮、土山の被害面積は57・8haに及び、特に山間地の朝宮地域の被害が目立ちました。

近年はこのような被害は発生していませんでしたが、昭和52年にも異常気象の影響を受けて同様の被害が発生しています。

今年1月2月の平均気温が極端に低く、最低気温もマイナス4度以下の日が長く続きました。雨量も極端に少なく、これらが相乗して被害が発生したものと考えられます。

被害がひどいところは中刈り更新が必要のため、甲賀市やJAこうかなどから機械の導入支援策がとられました。また、樹勢回復策として有機肥料購入への支援が行われました。



女性農業者交流会

5月29日、県立男女共同参画センターにおいて、滋賀県女性農業者交流会が開催されました。

「女性が地域農業で輝くために！」と題し、食環境ジャーナリスト、食総合プロデューサーの金丸弘美氏より講演がありました。

女性の視点や女性ならではの場づくりを生かすことで、消費行動の7割を占めるといわれる女性が地域経済をつなぐという事例を分かりやすく紹介されました。

全国各地を回り、現場を観て人と触れ、体験してこられた金丸先生からの言葉ひとつひとつに引き込まれ、今私たちが気付けべきことを考えさせられる講演でした。



その後場所を変え、参加者の有志によるマルシェの会場へと移動しました。マルシェではシフォンケーキやジャム、野菜などが所狭しと並べられ、ここでも女性の消費行動力の高さが発揮されていました。(K)



農業委員となり、事業に参加していつも感じることは、農業関係においても様々な分野で多くの女性が活躍されているということで、交流する中で新しい発見やヒントをもらい、大いに刺激を受けています。

昨年、甲賀市農業委員会も新たな体制となり、滋賀県内では農業委員300名(内女性39名)、農地利用最適化推進委員(以下、推進委員)276名(内女性0名)となりました。

全国で滋賀県のみ女性の推進委員が0名という状況ですので、次期改選時には、ぜひ甲賀市から女性の推進委員が誕生しますよう、期待しています。(H)

もっとう
組織に女性の力を

農地利用の最適化の推進

甲賀市農業委員会では、「農地利用の最適化の推進」を最も重要な任務として、積極的に取り組んでいます。

取り組み内容

①遊休農地の発生防止・解消

- ・委員農地パトロール計画に基づき農地のパトロールや各種調査を実施します。

②担い手への農地集積・集約化

- ・農業者とコミュニケーションを深め、農地利用調整の情報を収集します。
- ・「人・農地プラン」の作成・見直し話し合いに出席します。

③新規参入の促進

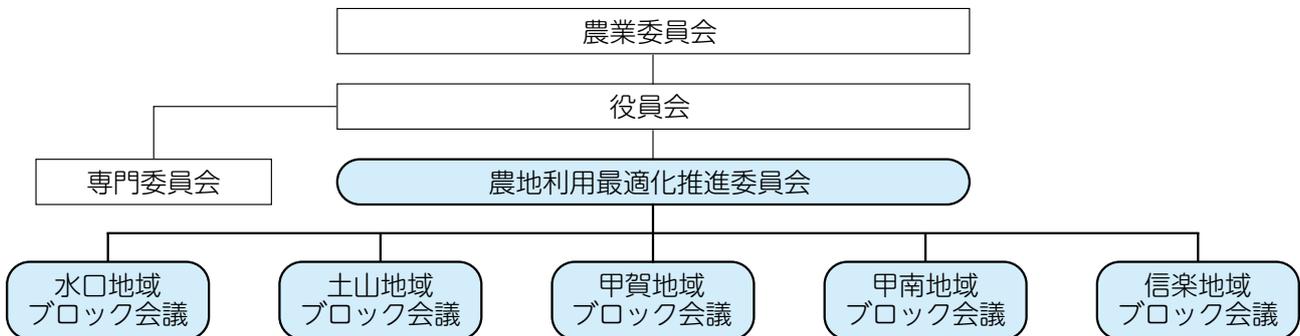
- ・新規就農や参入がある場合は、県・市・J A・地域等と連携して進めます。

④その他

- ・中間管理機構と連携し、貸手・借手のマッチングを行います。
- ・定期的にブロック会議を開催し、情報共有を行います。

推進体制

農地利用の最適化の推進を強化するため、新たに農地利用最適化推進委員会と各地域ブロック会議を設置しました。



なお、農地利用の最適化の推進には地域との連携が不可欠ですので、ご協力をお願いします。お気付きの点がございましたら、農業委員会事務局もしくはお近くの農業委員・農地利用最適化推進委員まで。

一農家の 独り言

しかなかつたが、最近では当たり前のように家の近くで見ることができ、被害ばかりで共存なんてあり得ない。家庭菜園での被害が増え、家の仏間のお供え物まで取られる始末である。

ロケット花火・手筒花火・エアガン・鳥獣撃退器などで追い払いをしている。隣の集落でも花火の音が響く。各戸がそれぞれ対策を講じていて、鳥獣撃退器を設置していると近寄らないが、その場合は隣へ行く。そうなると全戸が設置するしかない。

①被害者の声を高らかに、
②行政は被害が大きくなるまでに対策を、
③里山に来るサルは捕獲すべし、
以上のように思う。
そんな一農家の独り言。

(N)

20年前は！
動物園か
比叡山に
見に行く

地域で頑張る農業者紹介

土山町市場 なかむら 中村 てつぞう 哲三さん

中村哲三さんは高校卒業後、県外の専門学校で農業を学び、15年前から地元でお茶の生産に従事されています。また、家族経営協定を締結し、家族で農業に取り組んでおられます。



Q 協定の構成員はどなたですか。

A 私たち夫婦と両親の4名です。

主に両親が水稻を、私たちはお茶を作り、忙しい時はお互い助け合っています。就農した時に協定を締結しましたが、昨年、夫婦で農業者年金に加入するにあたり、内容を見直しました。

Q ご苦労されていることは。

A 近年、冬の寒さや夏の猛暑など極端な天候に悩まされています。天候はコントロールできないので茶や水稻の品種を色々と考えて導入しています。

Q 経営規模を教えてください。

A 茶畑が8 ha、水田が5 haです。茶畑は徐々に面積を拡大してきました。

Q 将来の夢などを聞かせて下さい。

A もっと消費者とつながりを持ち、自分の作った物がおいしいと言ってもらえればうれしいです。茶品評会などでも良い評価を得られるよう頑張りたい。また、新しい試みとして、3年前から紅茶製造にも取り組んでいます。

Q お茶の流通はどうされていますか。

A 一部個別に出荷していますが、ほとんどを全農の荒茶共同販売会に出しています。

国が支える。安心が大きくなる

担い手 積立年金
(要称)

農業者年金

安心で豊かな老後のため、**農業者年金に加入しましょう!!**

旧年金の経営移譲年金を受給されている方で、後継者に委譲した農地を転用される場合、年金が減額されることがありますので、事前に農業委員会事務局までご相談ください。

農業者年金加入条件 農業者年金は、次の要件を満たす方はどなたでも加入できます。

- 60歳未満の方
- 年間60日以上農業に従事(配偶者・後継者も可)
- 国民年金第1号被保険者

お問い合わせは...

甲賀市農業委員会事務局 TEL 69-2262

JAこうか営農企画課 TEL 62-0720

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

- 発行日 毎週金曜日
- 購読料 1ヶ月 700円
- 申込 農業委員会事務局 または地区農業委員へ

中村哲三さんのご夫婦も農業者年金に加入されました。

農業者年金は、保険料を全額社会保険料控除として計上できるなど農業者にとって有利な年金です。また、一定の要件を満たす方には月額最高1万円の保険料の国庫補助があり、家族協定を締結することにより夫婦で加入することもできます。

編集後記 農業委員会活動の柱である農地利用の最適化を推進するための体制が整いました。今後、地域の実情を踏まえながら、積極的に取り組んでいくこととなります。この広報紙で皆さんに活動状況をお知らせできればと考えています。(Y)